

校長室だより(No.34)

令和3年11月26日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

学ぶことの意義

今日の音楽会でアフリカのカリンバという楽器を子どもたちに紹介しました。板切れと針金でできた粗末な手作り楽器です。でも、音階を変えようと針金の長さを変えていたり、音がよく響くように針金を曲げていたりする工夫の跡が見られます。人が使いやすいように、音が楽しめるようによく考えられています。

以前の朝日新聞にウィリアム・カムクワンバさんが紹介されていました。彼の住んでいたアフリカのマラウイは、農業国で日本の北海道と九州を合わせたほどの面積です。あまりいい表現ではありませんがアフリカの最貧国のひとつです。その中部にあるウィンベが彼の出身地です。科学に興味を持っていた彼は、ラジオの修理・分解も得意でした。中等学校に進んでいろいろなことが学べると夢を膨らませていましたが、入学してまもない2001年にマラウイが大干ばつに見舞われます。農業を営む彼の家族は、食うや食わずとなり、中等学校の学費も払えず退学となります。食料が無く、飢えによる死者も出る中、強盗や暴力が横行します。その中でも彼は追い出された中等学校の図書室に通います。村を何とかするためです。そこで出会った『エネルギーの利用』という本を頼りにゴミ捨て場にあった材料を使って風力発電装置を完成させます。この電気でモーターを動かし水のくみ上げに成功します。

この風力発電装置を作り上げた後も、図書館に通い続け、風力発電を増やし、村で初めての給水システムを作り上げます。このことが新聞記事になりそのことがもとでアメリカの大学で環境学を学ぶことになりました。人のために何とかしたい、人の役に立ちたいと考えたことが自分の夢の実現にもつながったのではないかと思います。

子どもたちには、夢を実現していくための「4つの力」について折に触れ話をしています。ひとつは、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができること(人間関係形成・社会形成能力など)。次は、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとすること(自己理解・自己管理能力など)。三つ目は、様々な課題を発見し、適切な計画を立ててその課題を人と協力して解決することができること(課題対応能力)。最後が、自らが果たすべき様々な立場や役割を踏まえて人のために行動することをとおして自身の成長を実感させていくこと(キャリアプランニング能力)です。

もう少しこの力について説明すると「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解することだと考えます。自分が「しなくてはならないこと」や「これからやっていきたいこと」の意味や役割を考えて、自分から主体的に行動していく力だと思います。カムクワンバさんに話を戻すと、マラウイの人々の苦難を救うために、自分の知識を活かし、主体的に風力発電装置を完成させたこととなります。